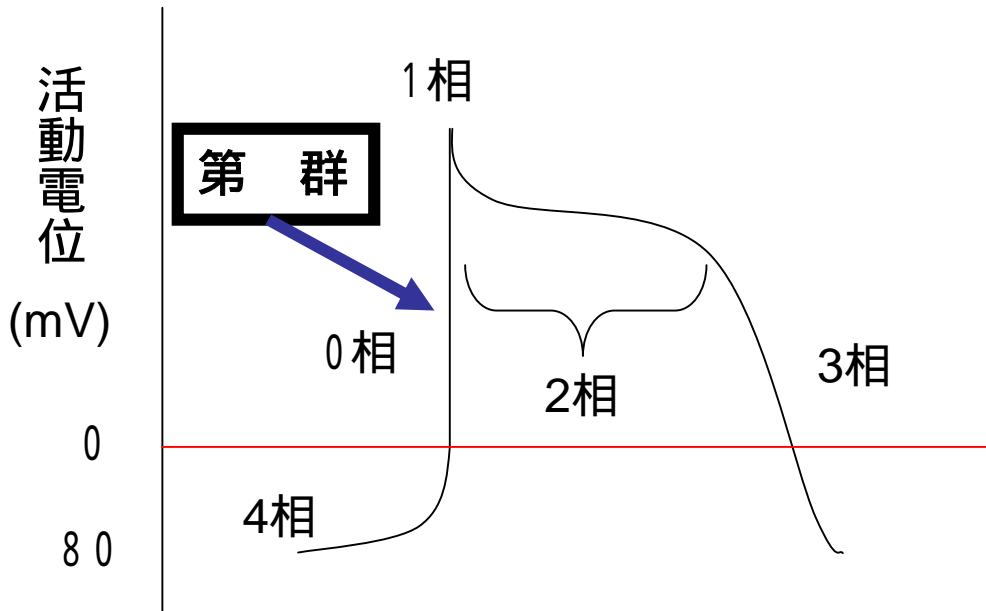


抗不整脈薬～第 群～



→ : 阻害

抗不整脈薬はVaughan Williams分類では第 群、第 群、第 群、第 群の4つに分類できる。
さらに第 群は a群、 b群、 c群に分類されている。

第 群抗不整脈薬

心筋 Na^+ チャンネルを阻害し、活動電位の立ち上がり(0相)抑制し伝導速度を遅延化する。

a群

不応期(活動電位持続時間)を延長する

b群

不応期を短縮する

c群

不応期に影響しない

a群

代表薬

キニジン:抗マラリア薬キニーネの右旋性光学異性体

プロカインアミド:代謝物にも同様の抗不整脈効果があり腎不全では代謝物が増加しやすい

血中濃度は両者の和として(投与直前)

有効域: 10 ~ 15 μ g/ml

中毒域: 20 μ g/ml以上

ジソピラミド:膜安定化作用を有する。抗コリン作用を示す
血中濃度(投与直前)

有効域: 2 ~ 6 μ g/ml

シベンゾリン:活動電位の持続時間延長、高濃度では内向き Ca^{2+} 電流の抑制をしめす

アジマリン

ピルメノール

b群

代表薬

リドカイン:プルキンエ線維の自動能抑制作用を示す

TDM

(点滴投与なら投与開始6 ~ 8時間と24時間後)

有効域: 2 ~ 5 μ g/ml

中毒域: 6 μ g/ml

代謝は肝臓で行なわれ、血中濃度は肝血流量により決定するため、心機能・肝機能に悪注意する

メキシチレチン:糖尿病性神経障害による痺れ、自発痛に使用される。

アプリジル: aと bの両特性を有する。

C群

代表薬

ピルジカイニド

フレカイニド

プロパフェノン

参考資料: 治療薬マニュアル2006 医学書院

処方わかる医療薬理学2004-2005 中原 保裕 Gakken

今日の治療薬2007 神谷 大雄 久保 孝夫 塩見 浩人 南江堂

薬理学 神谷 大雄 久保 孝夫 塩見 浩人 廣川書店

薬剤師のための服薬指導ガイド 第2版

和田 攻 朝長 文彌 株式会社 文光堂

「循環器疾患の服薬指導」指針 柴川 雅彦 高田 充隆

医薬ジャーナル社